（資料）

REFRANERO ESPAÑOL (35)
スペインの諺辞典

Bernardo Villasanz*(ed.)
新　井　藍　子**

1298. Perro (El) del herrero duerme a las martilladas y despierta a las dentelladas.
鍛冶屋の犬は　槌の音には眠っているが　噛む音には目を覚ます

－ 仕事からは逃げるが，食事時とか自分の都合のよい時には，いつのまにか現われる人をたとえていう。（スバルビィ）　仕事は人に押しつけ，食事時には馳せつけるように，他者の汗で生活の糧を得ている人を指す。（宝典，コバルビアス）自分が得するような場合にだけ姿を見せる者をいう。（バロス）

－ 類義の日本の諺には“銭あれば木仏（きぶつ）も面を返す”（木仏のように感情が冷ややかな者でも，金持ちには顔を向ける）がある。

1299. Perro (El) del hortelano, que ni come las berzas ni las deja comer al amo.
農家の犬は　キャベツを食べようとしないばかりか　主人にも食べさせようとしない

－ “El perro del hortelano - 農家の犬”とは，けちで，意地悪な人の比喩。（筆者の諺

* Edición y revisión. Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.
** Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

辞典，諺 256 を参照）

- この諺には異表現が多数ある。筆者の諺 256 に収載されていないのをここに上げておく；“El perro del hortelano, que ni come las berzas, ni las deja comer a otro. 農家の犬は，キャベツを食べようとしないばかりか，他の人にも食べさせようとしない”（宝典，コバルビアス），“Se parece al perro del hortelano, que ni come las berzas ni las deja comer. 自分で食べようとしないばかりか，人にも食べさせようともしない農家の犬に似ている”（自分自身得になるようなことをしないだけでなく，人にもさせない者をたとえていう－スバルビィ諺辞典）

1300. Perro ladrador, nunca buen mordedor.
吠える犬は　噛みつかぬ

- 口数は多いが，実行力がないもののたとえ。（バロス）犬というものは，吠えれば吠えるほど，噛むおそれがないように，たくさん喋る人ほど仕事をしない。（スバルビィ）
- 異表現には，“perro ladrador, nunca buen cazador, o poco mordedor. 吠える犬は，獲物を獲らぬ，或は，めったに噛みつかぬ”（スバルビィ諺辞典）がある。
- また，同義の諺には，“Gato maullador, nunca buen cazador. 鳴く猫は，鼠を捕らぬ”（筆者の諺辞典，諺 615 を参照），“La lengua larga es señal de mano corta. 長い舌は，短い手を持つ”（バロス諺集）などがあり，類義の諺には“Mal ladra el perro cuando ladra de miedo. 臆病な犬は，いやな吠えかたをする”（同諺辞典，諺 803 を参照），“Más ladra el perro cuando ladra de miedo. 怯えて吠える犬は，よく吠える”（同諺辞典，諺 844 を参照）などがある。反対の意味の諺も次のようにコレアス諺集に見られる；“Perro que mucho ladra, bien guarda la casa. よく吠える犬は，しっかりと家を守る”
- 見出しと同義の日本の諺には，“能なしの口叩き”，“口自慢の仕事下手”，“黙り猫が鼠を捕る”などがある。

1301. Perro (El), mi amigo; la mujer, mi enemigo; el hijo, mi señor.
犬はわが友　家内はわが敵　息子はわが主人

- 家庭における夫の視点からそれぞれの特徴を表現している；つまり忠実な犬，偽りの妻，横暴な子供を。（スバルビィ）

– 家庭の中では，子供が一番偉くて我が物顔にのさばっているし，妻はいつでも子供の味方である。夫の居場所はないも同然で，そういう夫に同情し，理解してくれるのは唯一愛犬だけである。現代の日本の家族を表わしているような諺である。

1302. Perro（El）nuevo y el niño vanse para quienes les hace mimos.
新米の犬と子供は　甘やかす者の後に　ついていく

– 人でも動物でも，常に喜ばせてくれる者に近づくものである。（スバルビィ）
– 同義の諺には“El perro y el niño, donde ven cariño. 犬と子供は，やさしくしてくれる所に行く”がある。
– 特に，小さな子供，犬，猫はかまってくれたり，一緒に遊んでくれたりする人が大好きである。

1303. Perro que lobos mata, lobos le matan.
狼を殺す犬は　狼に食べられる

– 人に害を与える者は，同じように害を受けるようになるということ。（バロス）
– 同義の諺には“El que a hierro mata, a hierro muere. 剣(けん)を使う者は，剣で死ぬ”（筆者の諺辞典，諺 464 を参照）
– 同義の日本の諺には，“剣を使う者は剣で死ぬ”，“兵強ければ則(すなわ)ち滅ぶ”，“人を呪わば穴二つ”などがある。

1304. Perros（Los）de Zurita, no teniendo a quién morder, uno a otro se mordían.
スリータの犬どもは　噛みつく相手がいなかったので　互いに噛み合った

– 悪党は，害を与える相手が見つからないと，互いに傷つけ合う。
– この格言にはいろいろな説がある；1）コバルビアスの宝典には“Los perros de Zurita”となっている。コバルビアスによると，“スリータの城塞主は，とても獰猛な犬を飼っていた。日中は繋いでいたが，夜になると放していた。それらの犬は噛みつく相手がいない時には，互いに噛み合っていた。”

2）コレアス諺集では，異表現の“Los perros de Zorita, pocos y mal avenidos. ソリータの犬は数は多くないが，互いに仲が悪い”が収載されている。コレアスによると，“ソリータには，カラトラバ騎士団（1158 年設立の，レコンキスタに貢献したスペインの宗教騎士団－筆者）の城塞があった。そこの騎士団長たちは，国境のイスラム教徒を警戒するために不寝番の犬を飼っていた。”

3）スバルビィ諺辞典には，こうでている；“Los perros de Zurita, que no teniendo a quién morder, uno a otro se mordían. スリータの犬どもは，噛みつく相手がいなかったので互いに噛み合った”スバルビィによると，“邪悪な陰口家たちは，悪口を言ったり，害を与える相手がいないときは，互いに悪口を言い合ったり，傷つけ合うという意。この格言の基となっているのは，次の逸話による。スリータの村長は，数匹のとても獰猛な犬を飼っていた。日中は繋いであったが，夜は解き放されていた。道に噛みつく人間が見当たらないと互いに噛み合っていた。”

4）イリバレン（格言の由来）に収載されているのは“Como los perros de Zorita. ソリータの犬どものように”で，イリバレンも，上記に記されているコバルビアス，コレアスを引用して解説している。また，次のようにも説明している；“この格言は，Guadalajara 県（スペイン中部にある－筆者）の Zorita de los Canes と呼ばれている村を指していると或る者は言う。また，他の者は，Zorita という名の村長がいて，この村長はマスチフ種の非常な獰猛な犬を数匹飼っていた。昼は繋がれていたが，夜は解き放されていた。犬どもは噛む相手がいないときは，互いに噛み合っていたと言っている。”

－ 見てきたように“Zurita”か“Zorita”か，どちらの言い方が正しいのかという二つの説がある。また，この名前は人の名か，場所の名かという問題もある。
筆者は，バロス諺集を基にしてこの諺辞典を解説しているので，見出しの“Zurita”の方を採用した。

1305. Perro（El）viejo no ladra en vano.
老犬　虚に吠えず

－ 経験を積んだ者は，なんらかの実益がない事に対しては断言したり，実行したりしようとはしない。（バロス）

－ スバルビィ諺辞典には次の異表現“El perro viejo no ladra a tocón. 老犬，切り株

に吠えず”（熟練を積んだ者は，時間を無駄にしないし，つまらぬ事を気にかけたりしない－スバルビィ），また，コレアス諺集には“Perro viejo, no ladra en vano, o en balde. 老犬虚に吠えず”がそれぞれ収載されている。

－ 類義の諺には“El perro viejo, si ladra da consejo. 老いた犬が吠えるのは，忠告したいから”（経験を積んだ年寄りの忠告はなんて役に立つことであろうか－バロス）がある。

－ 見出しの訳に使用したのは日本の諺“老犬虚に吠えず”で表現も意味もぴったり同じである。その他の同義の諺には“老いたる馬は道を忘れず”，“老馬の智”（韓非子），“年寄りの言う事と牛の鞦（しりがい）は外れない”，“亀の甲より年の劫（こう）”など，いずれも経験を積み，年季の入った年寄りの意見は間違いがないという意味。

1306. Perseverancia（La）toda cosa alcanza.
根気があれば　全てを達成できる

－ 何事も途中で放棄せず辛抱強く続ければ，目的を達成できるということ。

－ 同義の諺には，“Continua gotera, horada la piedra. 絶えまぬしずくは，石をもうがつ”（筆者の諺辞典，諺 297 を参照），“La gota de agua horada la piedra. 雨垂れ石を穿つ”，“Dando la gotera, hace señal en la piedra. 水したたりて石をうがつ”（同諺辞典，諺 372 を参照），“Gota a gota, la mar se agota. 一滴一滴，海は尽きる”（同諺辞典，諺 619 を参照）などがある。

－ 日本の同義の諺には“雨垂れ石を穿つ”，“牛の歩みも千里”，“石の上にも三年”，“辛抱する木に金がなる”，“運根鈍”などがある，いずれも成功するためには，根気よくやること，ねばり強くすることが必要であることを謳っている。最後の諺では，更に幸運をつかむことが大事であると言っている。

1307. Persona ociosa no puede ser virtuosa.
無為は悪徳を招く（小人閑居して不善をなす）

－ 暇でひまでしょうがない人は，暇つぶしによからぬことを企んだり，実際にしてしまうということ。

－ 同義の諺には，“La ociosidad es madre de la mala ventura. 無為は悪運のもとである”（スバルビィ諺辞典），“Cuando el diablo no tiene qué hacer, con el rabo

mata moscas. 悪魔は，暇でしょうがないと，しっぽでハエを殺す”（筆者の諺辞典，諺 334 を参照），“La ociosidad es madre de todos los vicios. 無為は，あらゆる悪徳のもとである”（同諺辞典，諺 1206 参照）などが，また，類義の諺には，“La diligencia es madre de la buena ventura. 勤勉は幸運の母”（同諺辞典，諺 417 を参照），“Pereza es madre de pobreza. 怠惰は，貧困の母”（同諺辞典，諺 1294 を参照）などが，それぞれある。

– 例題：ドン・キホーテ第二部 70 章，公爵夫妻の屋敷で，侍女の悪ふざけでからかわれているドン・キホーテは奥方にその娘御をどう思うかと聞かれ，こう答える“..., sepa vuestra señoría que todo el mal desta doncella nace de ociosidad, cuyo remedio es la ocupación honesta y continua. 申しあげまするが，これなる娘御の病はすべて無為より生じております。この病いにつける薬は，上品なる仕事をつねに手から離さぬことにござりまする。”（続編三，高橋正武訳）注：公爵夫人の侍女の一人，おきゃんなアルティシドーラは，ドン・キホーテに恋い焦がれているふりをした，そしてドン・キホーテにつれなくされたと言って病気になり，死んだ真似さえした－筆者

– 同義の次の諺“小人閑居して不善をなす”が，日本ではよく知られている，その他には“暇ほど毒なものはない”がある。

1308. Pescador de caña, más come que gana.
釣り竿の漁師は　儲けより　もっと食べる

– 漁師が一日中，釣り竿をたれても一匹の魚も釣れずに過ごすことがあるように，あまり働きたくないがために，体を動かさずに実入りの少ない仕事を捜す人をたとえていう。（スバルビィ）

– スバルビィ諺辞典には異表現で“Pescador de caña, más pierde que gana. 釣り竿の漁師は，儲けるより損する”が，見られる。

– コレアス諺集には，見出しの諺の後に，後半の部分が次のように加えられている，“...; mas si la dicha le corre, más que gana come. もし運がよくても，儲けよりもっと食べる”コレアスによると；“運が良くてたくさん釣れたとしても必要とする費用にはまだ足りない。後半の言い方は，わざと＜que＞を＜gana＞の前におき，＜come＞を一番後ろにもってきているので，この面白い表現を理解できないで＜...,

más gana que come.＞と取り違える者もいるかもしれないが，次のいろいろな言い方がそういう意味ではないことを教えてくれるだろう；＜Pescador de caña, más come que gana; y si ventura le corre, cagajones come. 釣り竿の漁師は，儲けよりもっと食べる；もし運が良くても，酷いものしか食べられない＞，＜Pescador de caña, más come que gana; y si ventura le corre, más que tiene come. 釣り竿の漁師は，儲けよりもっと食べる；もし運が良くても，持っているものよりもっと食べる＞，＜Pescador de caña, más come que gana; y si ventura le viene, más come que tiene. 同訳＞，＜Pescador de caña, más pierde que gana. 釣り竿の漁師は，儲けるより損する＞，＜Pescador de caña, o de vara, más come que gana, y con duelo vuelve a su casa. 釣り竿の漁師は，儲けよりもっと食べる，そして悲嘆にくれて家に戻る＞など。”

– コバルビアスの宝典には，標題の諺“Pescador de caña, más come que gana.”のみが収載されている。
– コレアスの一連の諺に表現的に似ている日本の諺には“稼ぐに追い抜く貧乏神”，“骨折り損の草臥（くたび）れ儲け”，“労して功なし”などがあるが，上記のスバルビィのたとえとは異なって，こちらには，一生懸命働いて苦労しても，何の効果も利益も上がらない，或は，貧乏から抜け出せないという意味がある。

1309. Pescador que pesca un pez, pescador es.
魚一匹釣れば　漁師かどうか分かる

– あることに才能とか素質があるかないかを見分けるためには，何回も繰り返してしなくても，一回すれば判断できる。（バロス）
– 同義の諺には“Para muestra basta un botón. 見本には，一個のボタンで十分だ”（筆者の諺辞典，諺 1264 を参照），“Por la muestra se conoce el paño. 見本を見れば品物が分かる”（同諺 1264 を参照）などがある。
– 反義の諺も多数ある；“Una golondrina no hace verano, ni una sola virtud bienaventurado. 一羽の燕の飛来で，夏が来たわけではないし，一回きりの善行で善い人とはならない”，“Un solo acto no hace hábito. 一回きりの行いは習慣とはならない”，“Un solo golpe no derriba un roble. 一撃のみでは，樫の木を倒せない”など。

－ 日本には，見出しの諺とは反対に，何事も技術を身につけて一人前になるためには年月がかかるという“顎振り三年”（尺八の練習を指す），“櫂(かい)は三年櫓(ろ)は三月(みつき)”（舟を操るのに必要な年月を指す）などがある。

1310. Peso y medida quitan al hombre la fatiga.
秤(はかり)と物指しが　疲労を取り除く

－ このようにして商人が物を売れば，儲かるように，誰でも規則正しく正直な生活をすれば不愉快な思いをしたり，心を痛めることもない。（バロス）人は毎日の生活に秩序と規則を取り入れよと忠告している。（スバルビィ）

－ コレアス諺集には，次のように異表現が見られる；“El peso y medida sacan al hombre de porfía. 秤と物指しが，口論から救い出してくれる”，“Peso y medida mantiene en paz la villa; o la vida. 秤と物指しが，村とか生活を平和に保つ”，“Peso y medida, tiene en paz nuestra vida. 秤と物指しが，われわれの人生を平穏にしてくれる”など。ここで使われている“peso-秤”と“medida-物指し”は，それぞれ“秩序”と“規則正しさ”の比喩である－筆者

1311. Pez (El) que busca el anzuelo, busca su duelo.
釣り針を求める魚は　苦しみを求める

－ 物事のうわべとか，一見都合がよさそうな事柄などに騙されるのは間違いである。そこには何か人に被害を与えるようなことが隠されているのが常であるというたとえ。（スバルビィ）

－ スバルビィ諺辞典には，異表現“El pez que busca el cebo, busca el anzuelo. えさを求める魚は，釣り針を求める”が収められている。

－ 同義の諺には“El que ama el peligro, perecerá en él. 危険を求むる者は，危険に死す”（筆者の諺辞典，諺 465 を参照）がある。

－ 日本の類義の諺には“藪をつついて蛇を出す”がある。わざわざ余計なことをして，災難を蒙ることをたとえて言う。

1312. Pide el goloso para el deseoso.
食いしん坊が　物欲しげな者のために　ねだる

－ 他の人が必要としているからという口実で，間接的に自分も欲するものを要求するような人をたとえている。（スバルビィ）他者を口実に使って自分のためにねだる者のたとえ。（バロス）

1313. Pie (El) del amo, estiércol para la heredad.
主人の足は　田畑の肥料である

－ 運というものは，変わりやすいので栄えるためには細心の注意が必要である。（スバルビィ）

－ コレアス諺集には，次の異表現が収載されている；“El pie del dueño, estiércol es para la heredad y majuelo. 主人の足は，田畑や（実をつけ始めた－筆者）若木のブドウ園の肥料である”，“El pie del dueño, estiércol es para el güerto, la heredad y hero. 主人の足は，果樹園，田畑そして牧草のための肥料である”など。“El pie del amo-主人の足”とは，田畑に足繁く通い働くことを意味する。

－ 同義の諺には，“Guarda prado y hartarás ganado. 牧場を守れば，家畜でいっぱい”（筆者の諺辞典，諺 627 を参照），“El ojo del amo engorda el caballo. 飼い主の眼(まなこ)が，馬を太らせる”（同諺辞典，諺 1213 を参照），“El mejor pienso del caballo es el ojo de su amo; y con la cebada que le sobra fregarle la cola. 馬の最良の餌は，飼い主の眼である，そして，余った大麦でしっぽをきれいにしてあげなさい”（同諺 1213 を参照），“El ojo del señor es el pienso mejor. 飼い主の眼は，最良の飼料である”（同諺 1213 を参照），“Hacienda, tu amo te vea, y si no, te venda. 農園よ，主人が気にかけてくれるように，そうでなければ，売ってしまうように”（どんな物事でも，人任せにして放ったらかしにすると損害を蒙るのは結局自分であるということ－スバルビィ諺辞典，所有者自身がおのれの利益を管理すれば損をしないですむ－バロス諺集）などがある。

－ どんな仕事に対してもいいかげんでない細心の注意を払うためには，勤勉でなければならぬ。例えば，早起きして精出して働く必要がある。日本のことわざでも“朝寝朝酒は貧乏のもと”，“稼ぐに追い付く貧乏なし”，“鍬を担(かた)げた乞食は来ない”，“稼げば身

立つ”など，いずれも一生懸命に働けば路頭に迷うことなく繁盛するとおしえている。

1314. Piedra movediza nunca moho la cobija.
転(ころ)がる石には　苔が生えぬ

- しょっちゅう移し替える植物は生長しないし，増えもしないのと同じように，不安定な人は，財産を増やすことができない。（スバルビィ）いつも生き生きと仕事をすることを勧めている。（バロス）
- コレアス諺集に次の異表現“Piedra movediza, nunca moho la cobija, o nunca la cubre moho. 転がる石には，苔が生えぬ，或は，苔むさず”が，また，スバルビィ諺辞典には“Piedra movediza nunca la cubre moho, o nunca moho la cobija. 転がる石には，苔むさず，苔が生えぬ”が，それぞれ収載されている。
- 宝典（コバルビアス）には，“Piedra movediza, nunca la cubre moho. 転がる石には，苔むさず”の表現が見られる。コバルビアスによると，“何事も最後までやりとげない者とか，目標をしょっちゅう変える者は，決して栄えないというたとえ”
- バロスの解釈と同義の諺には“El molino andando gana. 回る水車は，儲ける”（たえず努力し，精出して働いている人は成功するたとえ－筆者の諺辞典，諺 947 を参照），“El molinero andando velando gana, que no estándose en la cama; o velando. 水車小屋の番人は，ベッドにいるのではなく，寝ずに監視しているから稼ぐのである”（同諺 947 を参照）がある。
- 例題：セレスティーナ第 15 幕，ここでは，スバルビィの解釈の意で用いられている。セレスティーナが殺されて，ひとりぼっちになってしまったエリシアは，従姉から自分の家に来いと言われるが，断る，“Pues ya sabes cuán duro es dejar lo usado y que mudar costumbre es a par de muerte y ＜piedra movediza que nunca moho la cobija＞. Allí quiero estar,... だって，あんたももう判っているよね。手馴れたことをやめるのは，どれ位つらいことか，また習慣を変えることは死ぬのと同じだし，転がる石には絶対に苔がつかないということをね。あたいはあそこにいたいのよ。”（魔女セレスティナ，大島正訳）
- こちらの諺の“転がる石には苔が生えぬ”，“転石苔むさず”，“転石苔を生ぜず”などにもスペインのそれと全く同じように二つの意味がある。つまり，よく働き，きびきびと行動している者は，いつも元気でさびがつかないという意。また，他方では，仕

事や住所をよく変える者は，生活が安定しないので財産を蓄えることも出来ないし，成功もしないという意である。

1315. Piedra sin agua no aguza en la fragua.
研ぎ石は　水をかけないと　鋭利にならない

- 人が生きていくためには，あらゆる領域で金が欠かせないというたとえ。（バロス）人が企てることを成し遂げるためには，互いに助け合うことが必要である，或は，他者から援助の手が差し伸べられることが欠かせないとおしえている。（スバルビィ）
- コレアス（諺集）によると，“研ぎ石の下のほうに水をかけないと鋭利にならないように，金なしには何もすることができない。何かを手に入れるためにはプレゼントもしなければならないし，出費することも必要である。例えば，土地を耕す農夫は金がなければ，鍛冶屋の炉に鋤の刃を研いでもらうこともできない。”
- 同義の諺には“Menea la cola el can, no por ti, sino por el pan. 犬が尾を振るのは，パンにであって，君にではない”（筆者の諺辞典，諺 927 を参照），“Si quieres que te siga el can, dale pan. 犬についてきてもらいたかったら，パンを上げなさい”（同諺 927 を参照），“Por el pan baila el can. パンのためなら犬でも踊る”（同諺 927 を参照），“Por dinero baila el perro y por pan si se lo dan. 金のためなら犬でも踊る，もしパンを上げるならパンのためにも踊る”，“Para que anden los carros hay que untarlos. 荷車が動くためには，油を塗らなければならぬ”（同諺辞典，諺 1267 を参照）などがある。
- 上の人から引き立ててもらえるような，うまい世渡りの人は，誰かれに謝礼金とかプレゼントを上げたりとか，何らかの出費を常にしているということ。同義の日本の諺には“地獄の沙汰も金次第”，“人間万事金の世の中”，“成るも成らぬも金次第”など，多数ある。

1316. Piedra（La）y la palabra no se recoge después de echada.
石と言葉は　放った後では　拾えない

- 人は誰でも慎重に考えながら話さなければならないというおしえ。
- 同義の諺には“palabra de boca, piedra de honda. 口から出た言葉，ぱちんこで弾いた石”（筆者の諺辞典，諺 1244 を参照），“Palabra y piedra suelta no tiene

vuelta. 放たれた言葉と石は戻ってこない”，“Palabra echada, mal puede ser retornada. 言い放たれた言葉には，不快な返事が返ってくる”，（同諺 1244 を参照），“Palabra en el corazón, nunca quita la pasión. 心に刺さった言葉は，決して忘れられない”，“La palabra que sale de la boca, nunca más torna. 口から出た言葉は，決して戻ってこない”（同諺 1244 を参照）など多数ある。

- これほど言葉というものは大切である。旧約聖書では次のように随所で口の利き方について戒めている；“El que mucho habla, mucho yerra; callar a tiempo es de sabios. 口数が多ければ罪は避けえない。唇を制すれば成功する”（箴言 9 －19），“Hay quienes hieren con sus palabras, pero hablan los sabios y dan el alivio. 軽卒なひと言が剣のように刺すこともある。知恵ある人の舌は癒す”（箴言 12－18），“Cuidar las palabras es cuidarse uno mismo; el que habla mucho se arruina solo. 自分の口を警戒する者は命を守る。いたずらに唇を開く者は滅びる”（箴言 13－ 3 ），“Uso y abuso de la palabra；口の利き方についての教訓；Hijos, escuchen la instrucción para aprender a hablar; el que la siga no pecará. 子らよ，口の利き方についての教訓を聞け。これを守る者は，決して災いに陥らない。Por su boca es atrapado el pecador, y el insolente y altanero caerá por ella. 罪人は自分の唇で罠に陥り，ののしる者や高慢な者は，唇によってつまずく”（シラ書 23-7-9）
- 同義の日本の諺には“吐いた唾は呑めぬ”，“覆水盆に返らず”，“三寸の舌に五尺の身を亡ぼす”，“舌は禍いの門”など，多数ある。

1317. Piel de oveja, carne de lobo.
羊の皮の下には　狼の肉

- 偽善者をたとえて言う。
- 異表現には“Piel de oveja, costillas de lobo, 羊の皮の下には，狼の背中”（狼の習性が隠されている－コレアス諺集）がある。
- 同義の諺が次のようにいくつか見られる；“El gato de Marirramos halaga con la cola y araña con las manos. しっぽでじゃれつき，爪でひっかく，マリラモスの猫”（筆者の諺辞典，諺 613 を参照），“Palabras de santo y uñas de gato. 聖人の言葉に，猫の爪”（同諺辞典，諺 1245 を参照），“Palabras dulces y melosas, a las veces traen ruines obras. 甘く優しい言葉，卑しい行い”（同諺 1245 を参照）など。

– 日本の同義の諺には“口に甘きは腹に毒あり”，“旨い物食わす人に油断すな”，“笑みの中の刀（とう）”，“笑う者は測るべからず”などがある。最後のことわざなどは，愛想笑いもほどほどにしないと痛くもない腹をさぐられるかもしれないと思わせる。

1318. Piensa el avariento que gasta por uno, y gasta por ciento.
しみったれは　一銭使ったと考えたのに　百使っていた

– 金の出し惜しみをして安く，悪いものを買えば，後で何回も同じものを買う羽目になる。
– 異表現がバロス諺集に見られる，“Piensa el avariento que gana por uno y gasta por ciento. しみったれは，一銭もうかったと考えたのに，百を使っていた”（日本の諺“一文吝（おし）みの百知らず”と同主旨－筆者）
– 同義の諺には“El dinero del pobre (o del mezquino), dos veces se gasta. 貧乏人は，二度払う”（筆者の諺辞典，諺 419 を参照），“Dineros de avaro, dos veces van al mercado. けちんぼうの金は，二度市場へ行く”（同諺 419 を参照），“El pan del mezquino, dos veces es comido. ケチな人は，二度パンを食べる”（同諺辞典，諺 1251 を参照）などがある。
– 見出しの諺と全く同じ主旨の日本のことわざは，“値切りて高買い”であろうか。値切って得したと思っていたのに，本当は高く買わされていたということは，海外旅行中にはよく起こるものである。こちらには，“安物は高物”，“安かろう高かろう”などのことわざもある。

1319. Piensa mal y acertarás.
悪く考えると　そのとおりになる

– サンチョ　パンサがいかにも言いそうな諺である。ことわざの主旨は，人間のあらゆることどもに起こる災難に起因するだろう。（バロス）
– 不安定で，移り変わりの激しいこの浮き世では，良い事よりも悪い事のほうが起こる率が高い。だから，個人的な事柄であれ，社会的な事柄であれ，悲観的に考えていると，たいていそのとおりになるのではなかろうか。

1320. Pierna (La) quebrada y en casa.
足悪くして　家にいる

－ 若い娘と結婚している女に，慎みと家に居ることを勧めている。
－ 異表現には“La doncella honrada, la pierna quebrada y en casa. まっとうな娘は，足悪くして，家にいる”（筆者の諺辞典，諺 432 を参照），“La mujer casada y honrada, la pierna quebrada y en casa, y la doncella, pierna y media. 結婚している律儀な女は，足折って，家の中，また，まっとうな娘も，同じ”（同諺辞典，諺 995 を参照）などがある。同義の諺には“La mujer en casa y el hombre en la plaza. 女は家に，男は外に”（同諺 995 を参照），“La mujer maridada, no viva descuidada. 結婚している女は，気を配って生きよ”（同諺 995）などがある。

1321. Pies (Los) del hortelano no echan a perder la huerta.
農園家の足は　農園を駄目にしない

－ 自分の従事している仕事に精通している者は，その仕事を立派に遂行できるということ。
－ スバルビィ諺辞典には，次の異表現“Los pies del hortelano no echan a perder la tierra, ni el sastre ensucia la tela. 農園家の足は，土地を駄目にしないし，仕立家は，布を汚さない”（知識のない者が，それらの仕事に従事した場合に落ち入りやすい間違いを専門家は容易く避けることができる－スバルビィ）が，収載されている。
－ 類義の諺には“El pienso mejor es el ojo del señor. 最良の飼料は，飼い主の眼である”（筆者の諺辞典，諺 1213 を参照），“El ojo del amo engorda el caballo. 飼い主の眼が，馬を太らせる”（同諺 1213 を参照），“El pie del amo, estiércol para la heredad. 主人の足は，田畑の肥料である”（同諺辞典，諺 1313 を参照）などがある。その他多数の類義の諺が，筆者の諺辞典，諺 627，1213，1313 に見られるのでぜひ参照して下さい。
－ その道その道には，他の追随を許さない専門家がいるものであるという主旨の諺は，こちらにも多数ある；“田作る道は農に問え”，“海の事は漁師に問え”，“餅は餅屋”，“商売は道によって賢し”，“馬は馬方”など。

1322. Pies enseñados a saltar no saben quedos estar.
跳ねることを教えられた足は　じっとしていられない

- 生まれつきの性格，或いは根強い習慣，癖などは，直したり，抑えるのはとても難しいということ。
- 同義の諺は，次のように多数ある；“Aunque la mona se vista de seda, mona se queda. 猿に冠”（筆者の諺辞典，諺 109 を参照），“Aunque muda el pelo la raposa, su natural no despoja. 狐は，毛が生え変っても，性格は変わらない”（同諺辞典，諺 110 を参照），“Genio y figura, hasta la sepultura. 人間の本性は，墓場まで”（同諺辞典，諺 616 を参照），“El lobo muda de pelo, mas no el celo. 狼は，毛が生え変わっても，性質は変わらぬ”（同諺辞典，諺 745 を参照），“Pierde el lobo los dientes, mas no las mientes. 狼は歯がなくなっても，心はそのまま”（同諺 745 を参照），“Lo que en la leche se mama, en la mortaja se derrama. 吸った乳を死装束にまき散らす”（同諺辞典，諺 759 を参照）など。
- スペインと同じように日本にも同義の諺がたくさんある。そのうちのいくつかを見てみよう；“跳ねる馬は死んでも跳ねる”，“噛む馬は死ぬまで噛む”，“雀百まで踊り忘れず”，“産屋の癖は八十まで治らぬ”など，言い表し方もスペインの一連の諺に類似している。

1323. Placeres (Los) son por onzas y los males por arrobas.
楽はちょっぴり　苦はどっさり

- この世で誰もが経験しているように，災難や苦しみは，喜びや幸運より量，質においてはるかに多い。（スバルビィ）
- コレアス諺集には，次の同義の諺が収載されている；“Placer y alegría, tan presto ida como venida. 喜びと楽しみは，来たときと同じ早さで行ってしまう”
- “por onzas”も“por arrobas”も“質量の単位”を表わす。成句“por arrobas-たくさん，豊富に”
- 全く同じ意味の日本の諺には，“楽は一日苦は一年”がある。楽しいときはすぐに過ぎ去ってしまうが，苦しいときは長く続くものだということ。

1324. Plega a Dios que orégano sea, y no se nos torne alcaravea.
期待通りになりますように　裏目に出ませんように！

- おそらく根拠に乏しい事柄に多大な期待を抱いている人の怖れを言う。（バロス）目論んでいる事が，期待に反して逆の結果になる怖れを表現している。（スバルビィ）
- 異表現が次のように見られる；“Plegue a Dios que orégano sea y que no se vuelva alcaravea. 同訳”，“Ojalá, o quiera, Dios, que orégano sea; y no se nos vuelva alcaravea. どうか，神様，願っている通りになりますように，裏目に出ませんように！”，“Quiera Dios que orégano sea y no alcaravea. 裏目に出ませんように！”
- 見出しの諺からは，比喩的口語表現の“No es todo el monte orégano./ No todo el monte es orégano. いつもよい時ばかりとは，限らない。すべてがたやすいことばかりとは，限らない”（筆者の諺辞典，諺 1097 を参照）がきている。現在でもよく使われている表現である。植物の名前の“orégano-オレガノ”と“alcaravea-ヒメウイキョウ”については，筆者の諺 1097 に説明されているので参照して下さい。
- ドン・キホーテ第一部 21 章と第二部 36 章に，それぞれ前半の部分，“...quiera Dios ...que orégano sea, ..どうぞ，神様マヨラナ（オレガノ－筆者）にしてくだせえ，..”（筆者の諺辞典，諺 1097 を参照），“...y no querría que orégano fuese. どうぞ，マヨラナであっていただきたいわね。”（同諺 1097 を参照）がこのように使われている。

1325. Pluma（La）es lengua del alma.
ペンは魂の言葉

- 書かれたものは，魂から発せられたものである。（スバルビィ）
- 例題：ドン・キホーテ第二部 16 章，ボルヘスが，エッセー（＜ドン・キホーテ＞私註，室井光広，群像 11 月号，平成 16-11-1 から引用）の中で＜セルバンテスはわれわれに 17 世紀スペインの詩を創りだしてくれたが，彼にとってはその世紀もその当時のスペインも詩的なものではなかった。＞と言っているように，この章では，ドン・キホーテを通して，セルバンテスは，詩と詩にたずさわる者における彼の考察を長々と述べている，その中で，標題の格言が次のように織り込まれている；“Si el poeta fuere casto en sus costumbres, lo será también en sus versos; la pluma es lengua del alma: cuales fueren los conceptos que en ella se engendraren, tales serán sus

escritos; 詩人にして，その日常が清ければ，その詩もまた清いでしょう。ペンはこころの舌です。こころに妊(はら)まれる想念の高さは，そのまま作品の高さになりましょう。”（続編一，永田寛定訳）注：“lengua”には，“舌，言葉，言語”などの意味がある－筆者

－ 心に思っていることは，おのずとことばに表れるものであるという“言葉は心の使い”，“言葉は身の文(あや)”，“文は人なり”などが，見出しの格言と同義であろう。

1326. Pobre porfiando saca mendrugo.
粘って粘って　パンくずをもらう

－ 粘り強さが全てを手に入れる。（バロス）

－ 同義の諺には“Continua gotera, horada la piedra. 絶えまぬしずくは，石をもうがつ”（筆者の諺辞典，諺 297 を参照），“Dando la gotera, hace señal en la piedra. 水したたりて石をうがつ”（同諺辞典，諺 372 を参照），“Gota a gota, la mar se agota. 一滴一滴，海は尽きる”（同諺辞典，諺 619 を参照），“Un grano no hace granero, pero ayuda al compañero. 塵も積もれば山となる”，“La perseverancia toda cosa alcanza. 根気があれば，全てを達成できる”（同諺辞典，諺 1306 を参照）などがある。

－ すでに見てきたように，日本の同義の諺には“雨垂れ石を穿つ”，“石の上にも三年”，“辛抱する木に金がなる”などがある。目標を揚げてそれに到達するためには，まず根気があること，ねばり強いことが大切であると教えている。

1327. Pobreza（La）es escalera del cielo al bueno, y al malo, del infierno.
貧困は　善良な者への天国の階段であり　悪者への地獄の階段である

－ キリストを信じる者は，神と富とに仕えることはできないので，地上に富を積んではならない，天に積みなさいとおしえられている。神を信じない悪者が貧しいと空腹のためにどんな悪いことでもするようになる。貧しさが人を堕落させるのではなく，人の善悪が人を左右するのであるということを説いている格言。

－ 異表現には“La pobreza es escalera del infierno al que de virtud anda enfermo.

貧困は，不道徳な者への地獄の階段である”がある。

また，貧困（pobreza）について次のような諺がいくつかある；“La pobreza no quita virtud, ni la pone la riqueza, mas son causa de quitarla y ponerla. 貧困は，道徳心を奪い取らないし，富はそれを与えない，しかし，それらは，奪い取ったり，与えたりする原因にはなる”，“La pobreza aviva los ingenios y las leyes hacen a los hombres buenos. 貧困は才覚を強め，法律は人を良くさせる”，“La pobreza hace al hombre estar en tristeza. 貧困は人を陰鬱にさせる”，“La pobreza no es vileza, mas deslustra la nobleza. 貧困は恥ずべきことではないが，威厳を損なう”，“Pobreza nunca alza la cabeza. 貧困は，決して顔を上げない”など。

－ 貧しさについて，旧約聖書（箴言 28-21-22）では，こうやさしく説いている；“No está bien discriminar a nadie, hasta por un pedazo de pan se puede pecar. 人を偏り見るのはよくない。だれでも一片のパンのために罪を犯しうる。”，“Algunos no pecan de pobres que son; cuando descansan tienen la conciencia tranquila. 貧しさゆえに，罪を犯さないで済む人もいる。仕事を終えて休むとき，彼は良心に責められることは何もない。”（シラ書 20-21-22），“Dios escucha la oración del pobre y le hace justicia sin tardar. 貧しい人の口から出る願いは，主の耳に達し，主の裁定は，速やかに下される。”（シラ書 21-5-6）と。また，同聖書では，貧しい者ではなく黄金を求める者こそ破滅すると諭す；“El que va tras el oro no queda sin culpa, y el que ama el dinero se extraviará por él. 黄金を愛する者は正しい者にはなれず，金銭を追い求める者は金銭で道を踏み外す。”（シラ書 31-5-6）

1328. Poca ciencia y mucha conciencia.
浅い知識と　深い良心

－ クリスチャンに必要なのは，聖パウロが言っているように，深い良心とほどほどの知識を持つことである。（コレアス）

－ バロス諺集には“Poca ciencia y mucha paciencia. 少しの知識と多くの忍耐心”（聖職者の言葉で，本当の幸せは善良であること，あまり物知りでないことの意味であるが，このような哲学的おしえを擁護するわけにはいかない－バロス）が，収載されている。

－ コレアス，バロス諺集にでてくる上記の“poca ciencia”は，“浅い知識”というよ

りは，“少しの理屈”と訳したほうが，両格言の真意を言い表しているだろう。見出しの諺が言わんとしていることは，“理屈をこねるより，厚い信仰心に基づいた道義的な行いをすること”であるし，また，後者の諺の意は“何事においても成功するのは忍耐心であって，あれこれ理屈をこねることではない”であろう。

— 或は，次のように箴言（旧約聖書）が教えているような謙虚さであることを言っているのかもしれない；“Los sabios se reservan sus conocimientos, 知恵ある人は知識を隠す。”（10-14），“El inteligente no hace alarde de su saber, pero el necio hace gala de su estupidez. 思慮深い人は知識を隠す。愚かな心はその無知を言いふらす。”（12-23-24），また，“Ser paciente es muestra de mucha inteligencia ; ser impaciente es muestra de gran estupidez. 忍耐によって英知が加わる。短気な者はますます無知になる。”（14-29-30），“Más vale ser paciente que valiente; más vale vencerse uno mismo que conquistar ciudades. 忍耐は力の強さにまさる。自制の力は町を占領するにまさる。”（16-32-33）など，これらの箴言は忍耐と英知の関連，自制心の大切さなどをわれわれにやさしく諭してくれる。これを見ても分かるように，上記の二つのスペインの格言にでてくる“poca ciencia”は，決して“浅薄な知識”を言っているのではなくて，その反対に“ひけらかさない知識，本当の英知”を言っているのだと思う。

1329. Poca diferencia hay entre no hacer una cosa y hacerla y que no se sepa.
しない事と　しても誰にも知られない事との間には　ほとんど違いがない

— 罪を犯すことまで，誰にも知られなければ，スキャンダルにはならない。（バロス）

— いかにもスペイン風のピカレスクな風刺がある諺である。ドン・キホーテのようなスペイン文学において，世間にどう見られているかの方が，本当はどうであるかよりずっと重要であるということが度々述べられている。いわゆる日本でも言われている世間体，人に対する体面の問題であろう。確かに，こっそりと不倫をしていて伴侶に知られなければ，していないのと同じように平穏な日常を過ごすことが出来るかもしれない。面白いことに，セルバンテスと同年代のシェイクスピアの四大悲劇の一つである＜オセロー＞の中でイアーゴーが，オセローに向かってこういうせりふがある，“私

は同国人の気風をよく承知しております。ヴェニスの女はいたずら好きで，神様には大ぴらのくせに，亭主にはあくまで隠しとおすというところがある，その最高の道徳というのは，犯すなかれではなく，知らしむなかれということなのでございます。”（＜オセロー＞，福田恆存訳，新潮文庫）こうして，イアーゴーは，オセローに妻のデズデモーナに対する疑いの念を植えつけるのである。この場合，デズデモーナは全く潔白であるが，オセローのほうは，簡単にイアーゴーの本当らしく聞こえる言葉を信じてしまうのである。あげくの果ては，誠実とは裏腹のオセローの破滅を企んでいるイアーゴーを“あの男，誠実の点では人後に落ちぬ。”（同上），また，誠実そのもののデズデモーナを“あの女，所詮は野の鷹，.....おれはだまされた。おれの救いはあの女を憎むことにしかない。”（同上）とオセローに言わしめるのである。こういう文学作品を見ると，この時代には，スペインでもイタリアでも，夫人たちの間には，夫にさえ知られなければ愛人がいたほうがいいという考えが普通にあったのではなかろうか。そうでなければ，こう簡単にオセローは，妻を疑わなかったであろう，どんなにイアーゴーの言葉が巧みであろうとも。

1330. Poca fatiga es gran sanidad.
少しの疲れは　大いなる健康

－ 肉体の健康に悪いのは疲れ過ぎであるが，ほとんど動かない生活も体に良くない。（バロス）現代では，精神的ストレスと過労がほとんどの病気を引き起こす原因になっているが，見出しの諺は，すでにコレアス諺集にも収載されているので，その頃（17世紀）にも同じようなことが言われていたのであろう。

もっとすごいことは，数千年前に書かれたと言われている旧約聖書に，心と体の健康の密接な関連が，すでにこう述べられていることである；“No te entregues a la tristeza, ni te atormentes con tus pensamientos. 悲しみに負けて気力を失うな。あれこれ思い悩むことはない。La alegría del corazón es la vida del hombre, la dicha le alarga los años. 朗らかな心は，人を生気にあふれさせ，喜びは長寿をもたらす。”（シラ書 30-21-23），“la envidia y los pleitos acortan la vida, y las preocupaciones hacen viejo antes de tiempo. ねたみや，怒りは寿命を縮め，思い煩いは人を老けさせる。Un corazón contento es como un banquete que trae buen provecho al que lo come. 快活な心は食欲を旺盛にし，食べ物をおいしく味わわせ

る。”（シラ書 30-24-25）

1331. Poca hiel hace amarga mucha miel.
少々の胆汁が　多量の蜜を　苦くする

– ひとつの不運が，長い幸せな日々を悲しいものに変えてしまうことをたとえている。（バロス）
– 蜜のように甘いものがいくら多量にあっても，胆汁のように苦いものをひとたらし入れるだけで蜜がすっかり苦くなってしまうように，幸福な日々にほんのわずかな厭なことがおこっただけで人の気持ちはすっかり滅入ってしまうことをたとえている。こういうことは，日常茶飯事われわれが経験していることである。人というものは精神的にも肉体的にもそんなに強くはなく，ぎりぎりのところで生きているのである。それだからこそ，何事も起こらないような平穏無事な生活が貴重に思われるのであろう。苦楽は伴うものであるという“楽あれば苦あり”，“苦あれば楽あり”，“禍福は糾(あざな)える縄の如し”などという諺は，いま幸せであるからといっていい気になってもいけないし，また，いま不幸だからといって落ち込んではいけないことをわれわれにおしえてくれるのである。

1332. Poca lana y entre zarzas.
少々の羊毛　しかも茨(いばら)の中に

– 僅かな利益にしかつながらない事柄に関わっており，しかもそれが非常に難しい状況にあることをたとえている。（バロス）
– 異表現が，次のようにそれぞれコレアス諺集，スバルビィ諺辞典に見られる；“Poca lana, y esa tendida en zarza. 少々の羊毛，しかも茨に引っかかって”（小さな農園，或は僅かな財産を上手に運用，管理できずにめちゃめちゃな状態にしている者をからかっている－コレアス），“Poca lana, y ésa en zarzas. 少々の羊毛，しかも茨の中に”（僅かなものを，苦労してやっとのおもいで，或は危険を犯して持っている人を言う－スバルビィ）
– 少量の，しかも苦労しがいのないものを持っている者をたとえている。類義の日本語の表現には“間尺に合わない”がある。割に合わずかえって苦労する分だけ損になるという意。また，諺には“骨折り損の草臥(くたび)れ儲け”，“しんどが得”，“労して功なし”

などがある。

1333. Poco a poco hila la vieja el copo.
少しずつ　老婆は糸玉を　紡いでいく

- 一歩一歩，人は根気よく努力を続ければ，いつかは目標に達することができるというたとえ。
- コバルビアス（宝典）は，こうコメントしている，“たとえゆっくりでも，している事を根気よく続けること，そうすればいつかはそれを終わらせることができる”
- 同義の諺には“Escalón a escalón, se sube la escalera a mejor mansión. 人は一階ずつより立派なマンションへの階段を昇っていく（塵も積もれば山となる）”（筆者の諺辞典，諺 574 を参照），“Gota a gota, la mar se agota. 一滴一滴，海は尽きる”（同諺辞典，諺 619 を参照），“Un grano no hace granero, pero ayuda al compañero. 塵も積もれば山となる”（同諺辞典，諺 621 を参照），“Grano a grano, hincha la gallina el papo. 一粒ずつメンドリは，餌袋をいっぱいにする”（同諺 621 を参照），“Muchos pocos hacen un mucho. たくさんの小さなものも大きなものとなる”（同諺辞典，諺 976 を参照），“La perseverancia toda cosa alcanza. 根気があれば，全てを達成できる”（同諺辞典，諺 1306 を参照），“Pobre porfiado saca mendrugo. しつこい者が，パンくずもらう”（同諺辞典，諺 1326 を参照），“Poco a poco se va lejos y corriendo a mal lugar. 人はゆっくりと遠方へ歩いていく，走ると間違った場所へ着いてしまう”（人生の行程は，慎重に落ち着いて進むようにとおしえている－バロス）など，多数ある。これらと同義，類義の諺は，ヨーロッパを含めアジアなど広範囲に渡って昔から用いられてきたようである。無論，日本にも多数あるのは，すでに見てきた通りである。

1334. Poco a poco se cría la muchacha desde el moco.
少しずつ　子供は洟垂れ期から　育てられていく

- 教育は幼い頃から始めなければならぬということ。（バロス）
- 子供をしつける時は，厳しくすべきであるということは，すでに旧約聖書で次のようにおしえている；“...pero el castigo y la corrección siempre traen sensatez. だが，鞭によるしつけは，どんなときでも知恵あるやり方。”（シラ書 22-6）

－　教育の大切さを謳う同義の日本の諺には“生まれつきより育ちが第一”，“親の甘茶が毒になる”，“可愛い子には旅させよ”，“獅子の子落とし”，“矯(た)めるなら若木のうち”，“二十過ぎての子の意見と彼岸過ぎての肥やしは効かぬ”などがある。これらの諺は，特に少年のうちにしつけをする大事さをたとえている。

1335. Poco daño espanta y mucho amansa.
小さい災難は驚かすが　大きな災難は大人しくさせる

－　不意に襲いかかってくる不運には，人は大騒ぎし，いらいらするのが常だが，長く続き，しかも大きい災難は，人を衰弱させ，押しつぶし，意気消沈させる。（バロス）それほどたいしたことのない不慮の出来事には，人は戸惑いを感じるが，それが重大な場合には，そこから人は学び，間違いを直すようになる。（スバルビィ）

－　異表現が次のように，コレアス諺集に見られる；“Poco mal espanta, y mucho amansa; o poco daño espanta. 同訳”また，次の同義の諺“Poco mal y bien atado. 小さい災難に，大きな困惑”，“Poco mal y bien gemido. 小さい災難に，大きな悲嘆”が，同諺集に収載されている。